

たとえば、 ～受験トラウマと偏差値幻想を越えた 「学び」のあり方～ ポシビリズム研究会

矢野 修一



矢野 修一 (やの しゅういち)

経済学部教授。

1960年生まれ。1991年、京都大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学。世界経済論・開発経済論専攻。【学生へのメッセージ】学生時代に日本の名作コミックスを読むことを薦めます。白土三平『カムイ伝』、坂口尚『石の花』、青木雄二『ナニワ金融道』、尾瀬あきら『夏子の酒』等は必読。へたな教科書を読むより、社会と人間を見る眼が養われるでしょう。

ポシビリズム研究会とは

この場をお借りして、私は「ポシビリズム研究会」の紹介をさせていたかどうかと思います。ポシビリズム研究会とは、私のゼミを卒業し、全国の大学・研究機関で研究を続けている人たちと定期的に行っている勉強会です。一九九八年九月

に立ち上げて以来、二〇〇二年九月までに十二回の定例研究会を高崎であるいは東京で開催してきました。研究会には専門的研究者だけではなく、社会の第一線で活躍する卒業生や現役の学部生有志も参加し、年齢、師弟の枠にとられない知的交流が続いています（研究会について詳しくは、ホームページをご覧ください）。

(<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Lounge/2137/>)

知的交流と研鑽の場

やっと大学を卒業したのに学部ゼミを母体にした勉強会なんて、と思う人もいるかもしれませんが、でも、異業種交流などは違った知的研鑽の場を求める人たちは多いようで、全国を見渡せば、先例がないわけではありません。中でも経済理論・環境経済学の都留重人先生（一橋大学名誉教授）や都市論の柴田徳衛先生（東京経済大学教授）が主宰される「背広ゼミ」が有名です。両先生の勉強会は、地の利もあって開催頻度も高く、調査旅行に出かけたり翻訳を出版したりとその活動も本格的ですが、私たちの活動は今のところささやかなものです。でも、修

士論文や博士論文、学会発表論文の中間報告、各種調査報告、書評会、古典の読み直しなど地道に活動を続けてきました。都留先生や柴田先生の研究会を目標に、将来的には共同研究の公刊等、活動領域を拡げていきたいと思っています。

多様な研究テーマ

学部ゼミの研究テーマは世界経済論・開発経済論なのですが、学部卒業後のメンバーの研究テーマは実に多様です。日本の農業政策、農村の就業構造をやっている人もいます。タイの労働力移動を日本と比較しつつ研究している人、戦後日本の対外経済政策の形成過程を丹念に検証している人もいます。インドに向き不可触賤民の政党史を調査している人、中央アジア諸国のジェンダー問題を取り上げている人もいます。この中には、すでに博士号を取得し大学や研究機関に就職して日夜研究に励んでいる人、学界で高い評価を獲得し日本学術振興会の特別研究員に選出されている人もいます。また、専門的研究を背景として地方行政、国際金融、開発援助の舞台で活躍している人もいます。

勘違いするな

研究会に参集する人たちから私は多大

な刺激を受けてきましたが、ここでポシビリズム研究会のことを書いたのは、何もゼミ卒業生の自慢話をしたかったからではありません。そうではなくて、しばしば見聞きする、在学生による高崎経済大学への自虐的評価に私自身、辟易しており、学生諸君にもう少し冷静かつ客観的に自らの勉強環境を見つめるきっかけを提供したかったから、というのがその理由です。昔も今も、高崎経済大学経済学部を第一志望として入学する学生は多いとは言えません。そのせいか、いつまでも受験の失敗を悔やんだり、誤差にしか思えないような偏差値レベルにこだわりの、他大学と比較する悪弊から抜けきれない学生が少なくないように思います。高崎経済大学でなければ、もっといろいろなことができ、人生違ったものになっていたはずなのに、と勘違いする学生が！

サボる口実を見つけるな

でもね、そんなセコイ次元で悩んでいる暇があったら、現況を見据え一歩でもいいから踏み出してみませんか。日々努力してみませんか。入学した大学のせいでも自分の可能性が制約されていると考えているとしたら、それは自分の勉強不足、努力不足に対し自分で免罪符を与えようとしているだけだと気づいてください。

やりたいことがあれば、つべこべご託を並べずに、やりはじめればいいんです。高崎だから、高経だから、できない、無理であるなどというのは、往々にして自分がサボる口実を見つけているにすぎません。そんなやつはどこにいても、どの大学に所属しているようが何事もなしえないでしょう。「やるやつ」はすでにやっています。ポシビリズム研究会のメンバーはその一例です。彼ら・彼女らは能力的に特に優れているわけではありませんが、ただ、学部時代のゼミや講義で自分のテーマを見つけ、卒業後も愚直に努力してきたのは確かです。

チャンス逃すな

「たとえば、ポシビリズム研究会」です。幸いなことに、本学経済学部では他にも様々な学びの場があります。他大学や実社会、研究者との交流の機会、本物の学問に触れるチャンスはいくらでもあります。でもそれは、受験トラウマや偏差値幻想に囚われたまま、自分自身のアンテナを張りめぐらせることがなければ、けっして感知しえないものです。まずは手始めに以下のサイトで本学卒業生たちの活躍ぶりを確認してみてください。そして、一歩踏み出しましょう。

(<http://www.geocities.co.jp/>)

CollegeLife/1250/)